

(3) その他

[表5：育成林（天然林型）の施業方法]

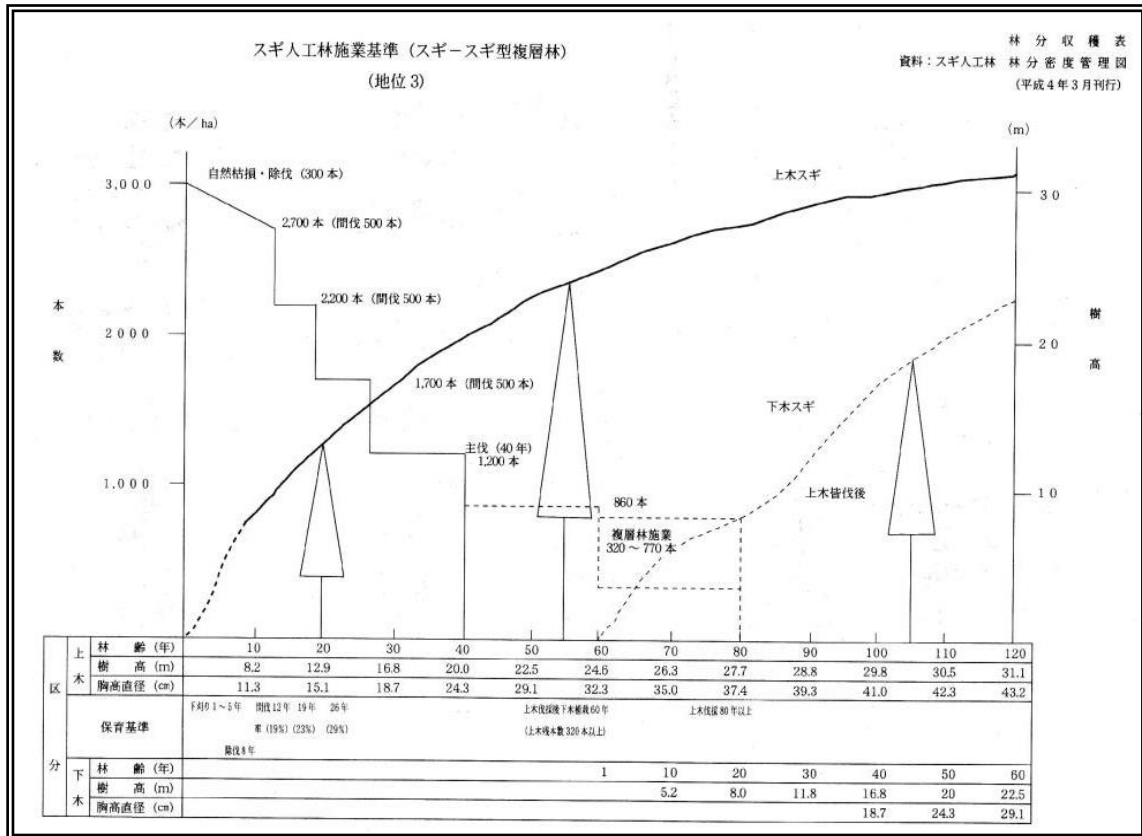
林型名 (適用樹種)	施業方法 (生産目標)	林型の判定基準	施業方法など
ブナ・ミズナラ (ブナ、ミズナラ、ミズメ、ケヤキ)	長伐期施業 (大径材生産)	伐期(80年生以上)において、ブナ・ミズナラなどの材積が70%を超える林分。 伐期以前では、30年生未満で、ブナ・ミズナラなどを400本/ha以上含む林分。 80年生未満で、ブナ・ミズナラなどを250本/ha以上含む林分。	<ul style="list-style-type: none"> 更新は、母樹(胸高直径40~50cm以上)を20~40本/haを残し、刈払いを行います。また、稚樹の刈出しを行います。 樹高2~4m程度のとき、目的外樹種の除伐を行います。 その後の除・間伐の目安として、目的樹種の枝下高を5~6mとするような保育を行います。 上層木密度は、胸高直径10~15cmのとき700~800本/ha、胸高直径20~30cmのとき、400本/ha程度を目安とします。 間伐では、上層木の伐倒を基本とし中下層は作業に支障のない限り保残します。
コナラ他 (コナラ、クリ、サクラ類、ホオノキ、カエデ類、ミズキ)	中伐期施業 (中径材生産)	50年生未満では、優占する樹種を800本/ha以上含む森林。 50年生以上では、優占する樹種を500本/ha以上含む森林。	<ul style="list-style-type: none"> 母樹の保残や稚樹の刈出し、目的外樹種の除間伐の実施については、ブナ・ミズナラ林型と同様の施業を行います。 樹齢20~30年の二次林においては枝下高5mに達した上層木を残し、間伐を実施します。 特にクリが立木の過半数を占める場合は、枝下高6~8mの上層木を保残し、間伐を実施します。 標準仕立本数は、胸高直径10~15cmのとき800本/haとします。
コナラ (コナラ)	短伐期施業 (しいたけ原木生産)	コナラを1,500本/ha以上含む森林	<ul style="list-style-type: none"> 更新は萌芽更新により行い、萌芽が多い場合には、7~8年目に健全な萌芽枝を一株当たり2~3本を残し他は除去します。 萌芽枝整理後の成立本数は、1,500~2,500本/haとします。
アカマツ (アカマツ、クリ、コナラ、ヒメコマツ)	中伐期施業 (構造用材など)	アカマツなどの材積割合が50%を超える森林	<ul style="list-style-type: none"> 更新は母樹(樹高15~20m)を20~40本/haを残し、刈払いを行います。 堆積腐植が多い所では腐植層のかき起こしを行います。また、稚樹の刈出しを行います。 林齢8~10年のとき不用木と不良木を伐採します。 標準仕立本数は、胸高直径5cm前後のとき1,500~2,000本/haとします。
その他 (カンバ類、ハンノキ類、その他)		上記以外の林分	<ul style="list-style-type: none"> 特に定めません。



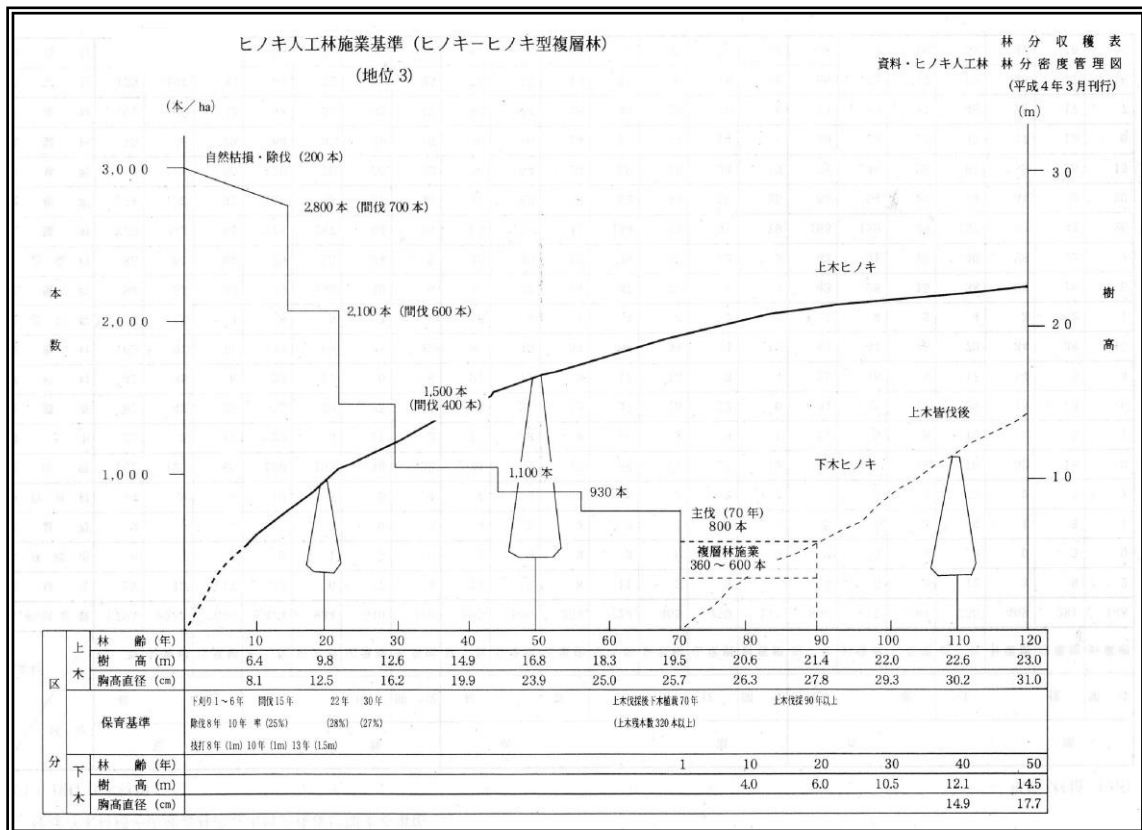
■ 参考資料



[図18：スギ人工林施業基準]



[図19：ヒノキ人工林施業基準]

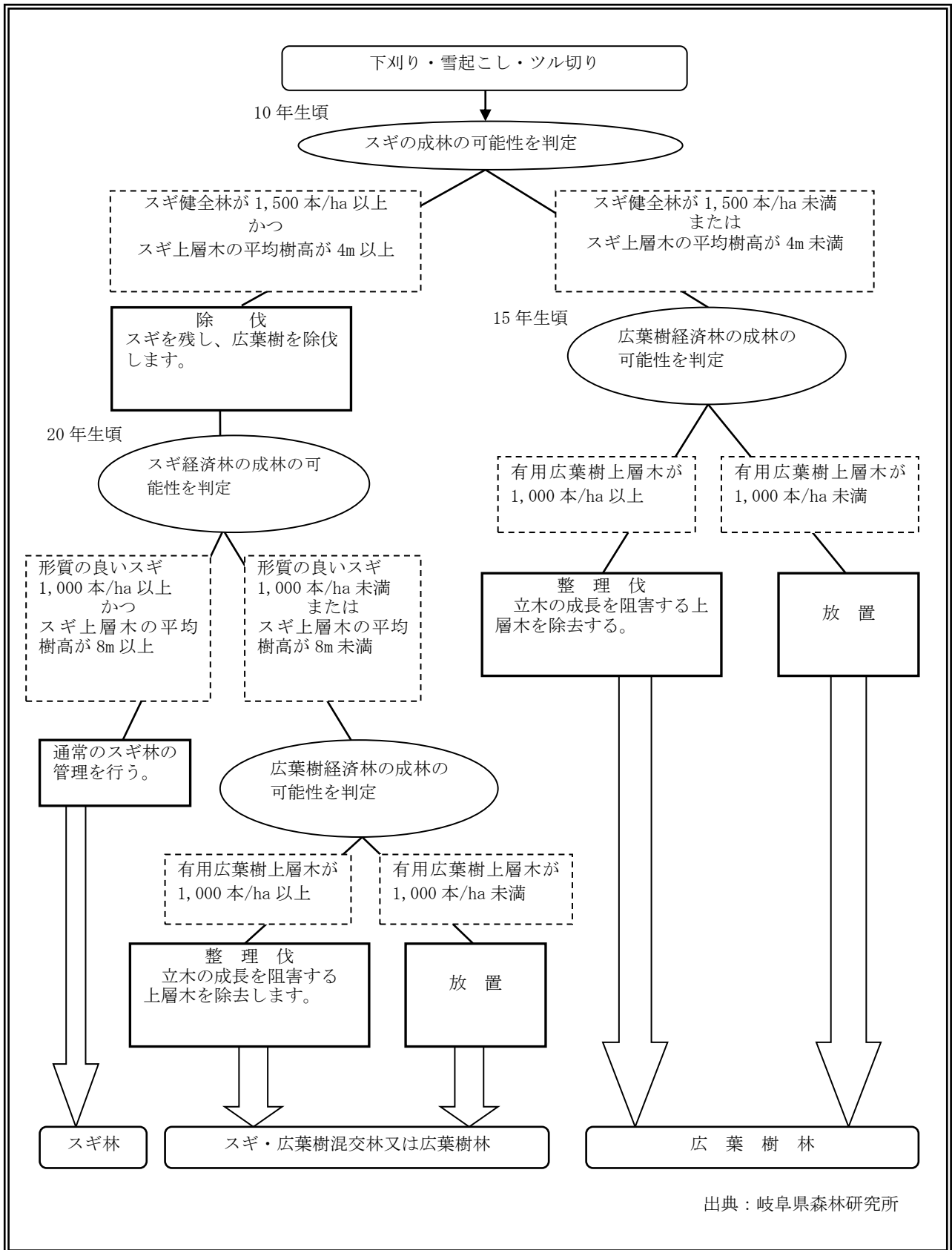




■ 参考資料



[図 20 : 豪・多雪地帯におけるスギ造林地の施業案]



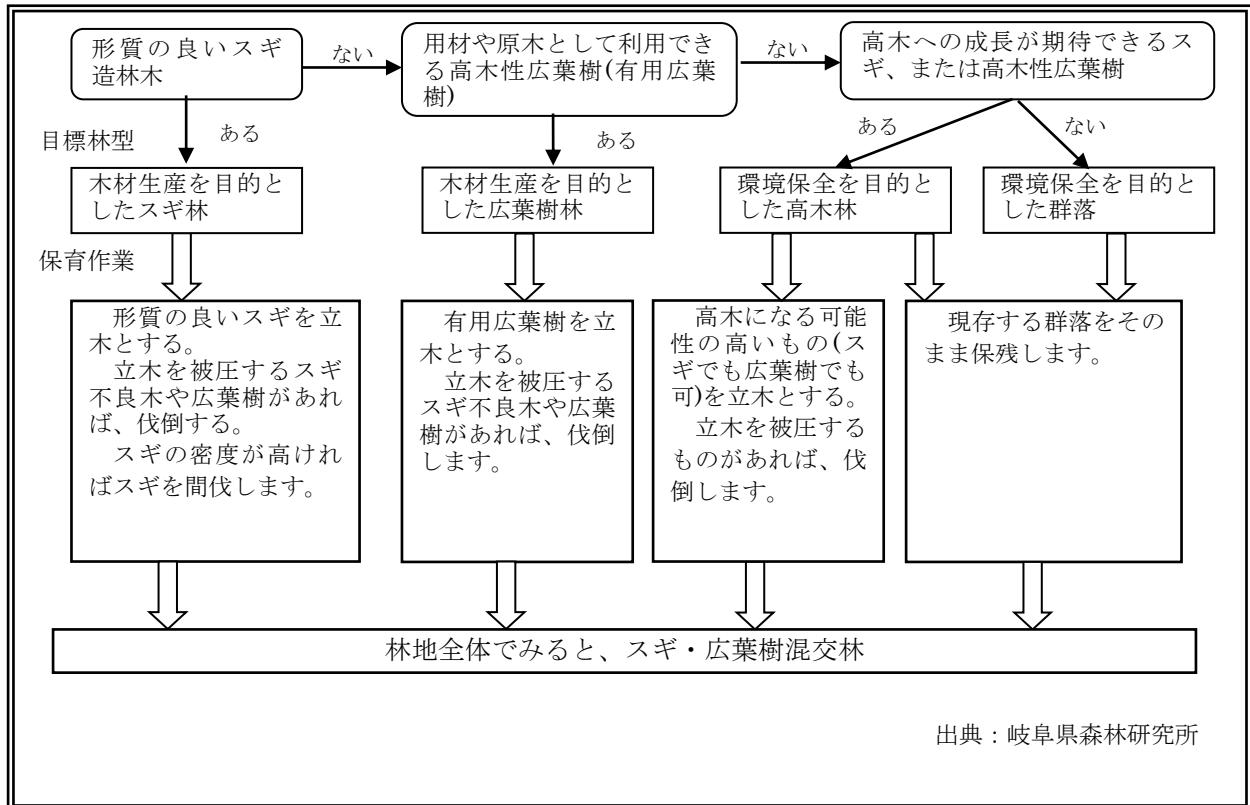
出典：岐阜県森林研究所



■ 参考資料



[図 21 : スギ人工造林地に侵入した広葉樹の取扱い]



[表 6 : 主な更新樹種の詳細]

○第4の(4)造林に関する事項②「天然更新に関する事項」(ウ)天然更新樹種のうち、「表4-16 主な更新樹種」の詳細について、次表のように例示します。

針広	樹種等		ぼう芽更新可	備考
	分類	樹種		
針葉樹	スギ			
	ヒノキ類			
		ヒノキ		
		サワラ		
		クロバ		
		アスナロ		
	マツ類			
		ヒメコマツ		
		チョウセンゴヨウ		
		アカマツ		
	カラマツ			
	モミ類			
		モミ		
		ウラジロモミ		
		シラビソ		亜高山帯
	オオシラビソ		亜高山帯	
ツガ類				
	ツガ			
	コメツガ		亜高山帯	



■ 参考資料



広葉樹	カシ類		ナラ類と同属
	ウラジロガシ	◎	
	ブナ類		
	ブナ		
	イヌブナ	◎	
	ナラ類		
	クヌギ	◎	県内には少ない
	ミズナラ	◎	
	コナラ (ホウソ)	◎	
	アベマキ (コルククヌギ)	◎	
	クリ	◎	
	サクラ類		
	ヤマザクラ		
	オオヤマザクラ (エゾヤマザクラ)	◎	
	カスミザクラ	◎	
	エドヒガン		
	カンバ類		
	ダケカンバ		
	ウダイカンバ		
	シラカンバ		
	ミズメ		
	ネコシデ		亜高山帯
	シデ類		
	クマシデ		
	アカシデ		
	イヌシデ	◎	
	ハンノキ類		
	ヤマハンノキ		
	ハンノキ		
	クルミ類		
	オニグルミ		
	サワグルミ		
	カエデ類		
ハウチワカエデ (メイゲツカエデ、アカバナハウチワカエデ、ネバリハウチワカエデ、オオメイゲツ、シナノハウチワカエデ、ケハウチワカエデ)			
メグスリノキ			
ヤマモミジ			
イタヤカエデ	◎	多くの変種を含む	
ウリハダカエデ	◎		
コハウチワカエデ (イタヤメイゲツ)			
ケヤキ	◎		
トチノキ			
カツラ			
ホオノキ	◎		
ミズキ			
ハリギリ			

※「ぼう芽更新可」欄に◎のある樹種であっても、更新が完了していない若齢な広葉樹林や大径化した広葉樹二次林(根本直径40cm以上、おおむね80年生以上)は、ぼう芽による更新が困難な樹種として取り扱い、更新樹種には含めない。